

広報について

- ・山鹿市の各事業所に案内を持っていくなど広報活動を行なったが、人数が思ったより集まらず、広報の難しさを感じた。今後は、各スタッフが普段から地域資源につながりを持てるように意識していき、教室のことや指導者協議会の PR につなげられるようにしていく必要がある。また早めに広報活動の準備を開始して各事業所への訪問等充実させていきたいと考える。
- ・保険の適用範囲や、送迎の有無、参加費についてなど、活動の詳細について把握しきれていない方も見受けられた。より分かりやすい説明を行なう必要がある。

開催場所

- ・教室を行なった体育館(バスケットコート 2 面分)は、思い切り遠くに投げる練習をしたり、ペアでバラバラに練習をしたりすることもあるので、フライングディスクを行なうには丁度よい広さだった。

流れについて

- ・教室の流れとしては、講師の方々とスタッフ間とで考えていた流れが異なる部分があり、スタッフが自発的にサポートができていない面があった。事前に打ち合わせを充分に行い、流れを把握しておく、よりスムーズに進行ができたと考える。
- ・競技に入る前に、スタッフと参加者マンツーマンで投げる練習を行なった。スタッフが適した投げ方、距離を把握した上で競技に入れたので今後も取り入れたい。
- ・時間がおしてしまい、競技終了後のアンケートを取る時間がほとんどとれなかった。事前にシュミレーションをして、ある程度余裕をもたせたプログラム作りをして対応していきたい。
- ・準備の時より様々な状態の方が来られることを事前に想定していた。参加者の方それぞれに、投げる距離や投げ方が調整できるよう、自由度を持たせたルール設定にしていたので、スポーツを楽しむ導入、という今回の教室の目的にかなった内容にすることができた。

全体を通して

- スタッフ間での情報の共有などで不十分な点があった。よりスムーズに進行し、教室の目的を達成するためにも、もっと密に連絡をとりあって、チームとしてまとまった動きを出していきたい。
- 教室は、参加者の方の笑顔もよく見られ、またやりたいという感想が出ていた。地域の方とのつながりが出来たのは実績につながるの、これからの活動にも活かしていきたいと考える。

スポーツ教室の実施風景を撮影した写真を添付すること。

